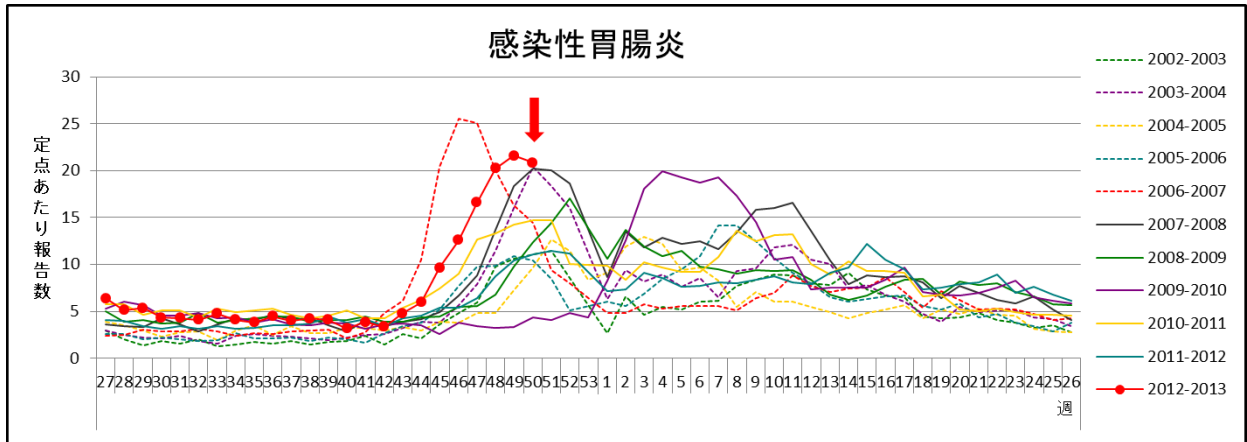


感染性胃腸炎情報 2012 年 第 50 週 (12 月 10 日 ~ 12 月 16 日)

- 岡山県内の患者報告数は 1,125 名 (定点あたり 20.83 人) で、わずかに減少しました。(54 定点医療機関報告)
- 岡山県全体、岡山市、倉敷市、備前地域、美作地域で発生レベル3 が継続しています。

【第 51 週 速報】

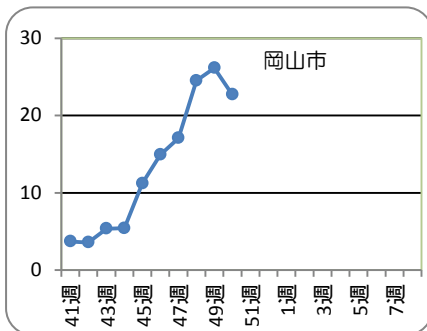
- 感染性胃腸炎(疑い)による学年閉鎖が備前市で 1 校、学級閉鎖が津山市で 1 校ありました。(12 月 20 日)



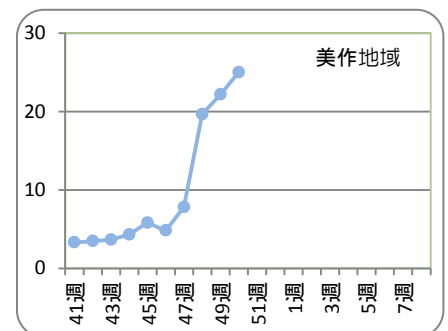
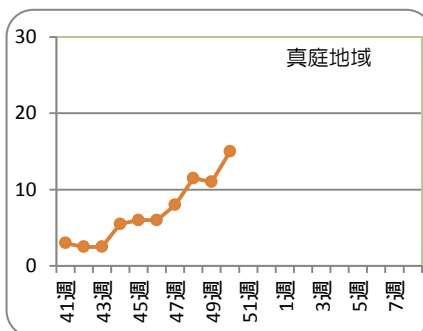
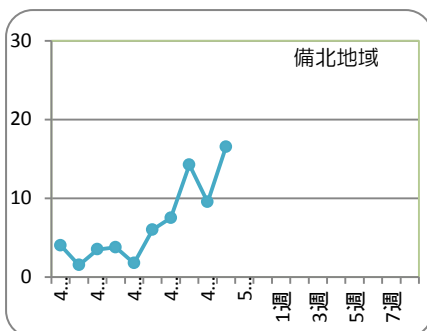
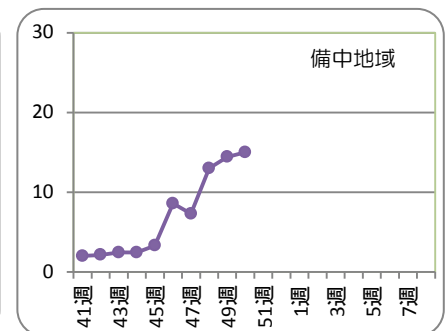
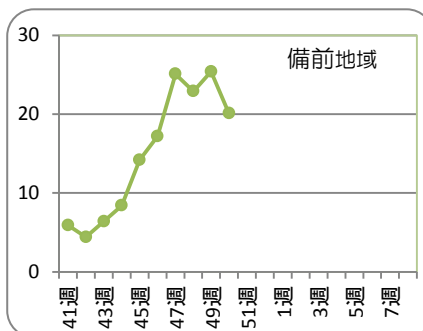
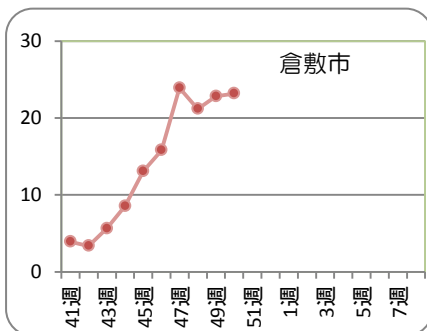
※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、今年 27 週 ~ 翌年 26 週を 1 シーズンとして、グラフを作成しています。

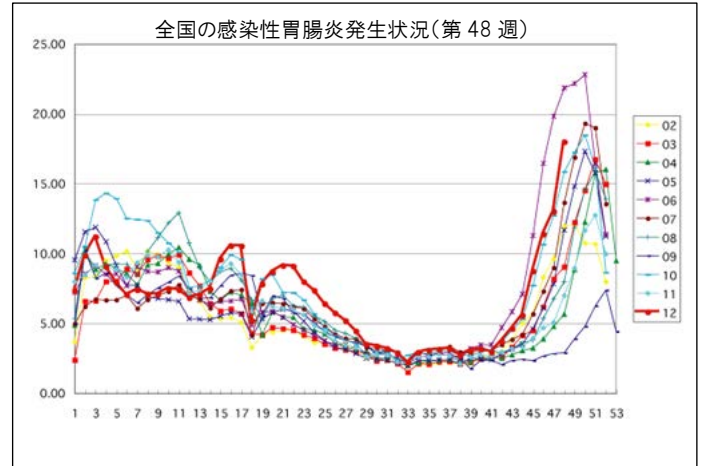
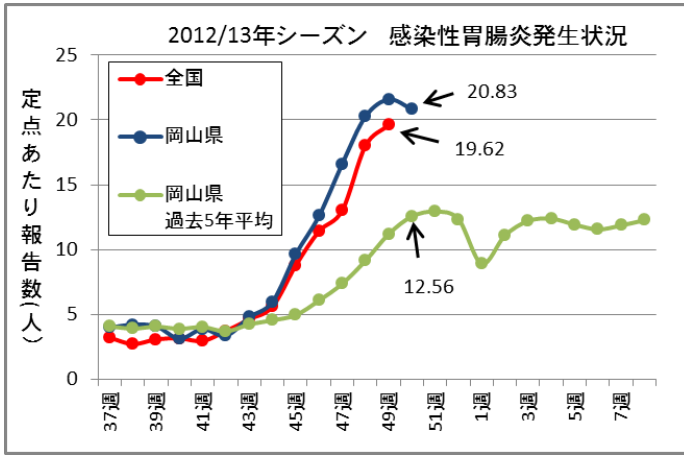
感染性胃腸炎は、県全体ではわずかに減少しましたが (定点あたり 21.57 → 20.83 人)、ひきつづき県内全域で大きな流行が継続しています。地域別では、岡山市 (22.71 人)、倉敷市 (23.18 人)、備前地域 (20.10 人)、美作地域 (25.00 人) で発生レベル3 が継続し、備北地域 (16.50 人) や真庭地域 (15.00 人) で、患者が大きく増加しています。これまで県南を中心に急速な拡大が見られましたが、県北部にも広がりを見せており、今後も拡大が懸念される状態です。

◆地域別・年齢別発生状況



年齢別では、2-3 歳の幼児が 19% で最も多く、5 歳以下の幼児で 53% を占めています。また、20 歳以上の割合も 13% から 16% に増加しており、乳幼児、小児だけでなく、成人にも感染が拡大しています。





(国立感染症研究所HPより)

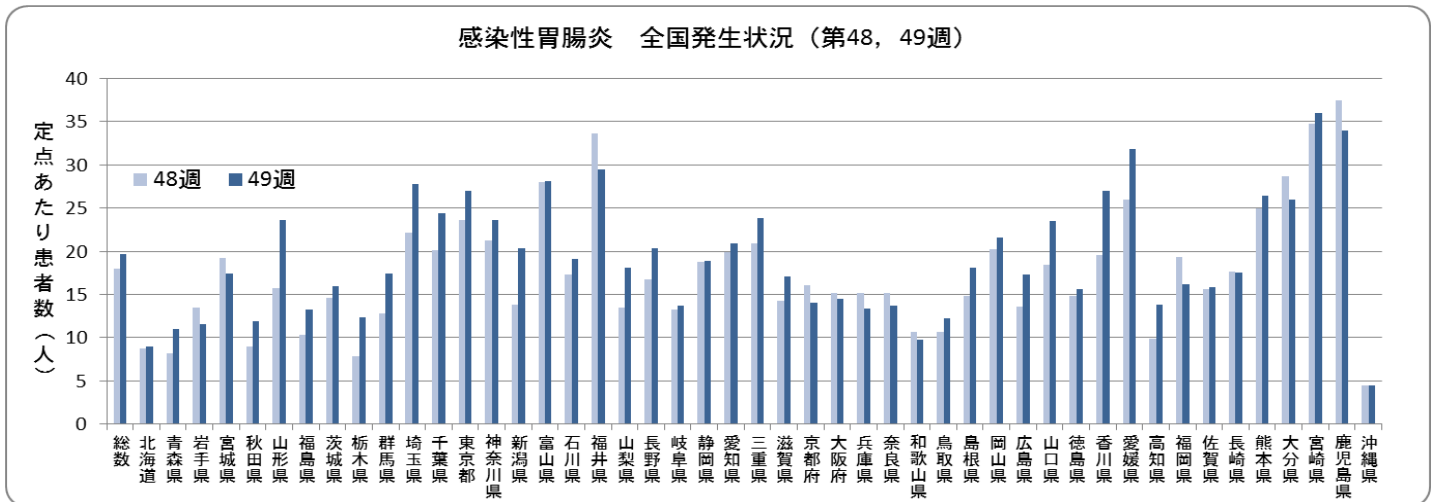
今シーズンに全国各地で検出されたノロウイルスの遺伝子解析によると、従来とは異なった抗原性を有すると推測される新たなGⅡ/4変異株が2012年10月以降全国各地で検出され、流行の主流になっているという報告もあります。岡山県では食中毒患者からノロウイルスが検出されていますが、詳細については現在解析中です。

この時期の感染性胃腸炎の主な原因であるノロウイルスの感染予防は、流水・石けんによる手洗いの励行と、吐物や下痢便の適切な処理を行うことが極めて重要です。排便後や、調理・食事の前には手洗いを励行し、吐物や下痢便を処理するときは、処理する人自身が感染しないよう気をつけましょう。消毒には85℃で1分以上熱湯消毒するか、塩素系消毒剤が有効です。アルコールは消毒効果が低いとされています。

通常重症化することはありませんが、小さなお子さんや高齢者の方は、嘔吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

[ノロウイルスに関するQ&Aについて\(厚生労働省\)](#)

[ノロウイルスに注意！この冬はノロウイルスに注意しましょう。\(厚生労働省\)](#)

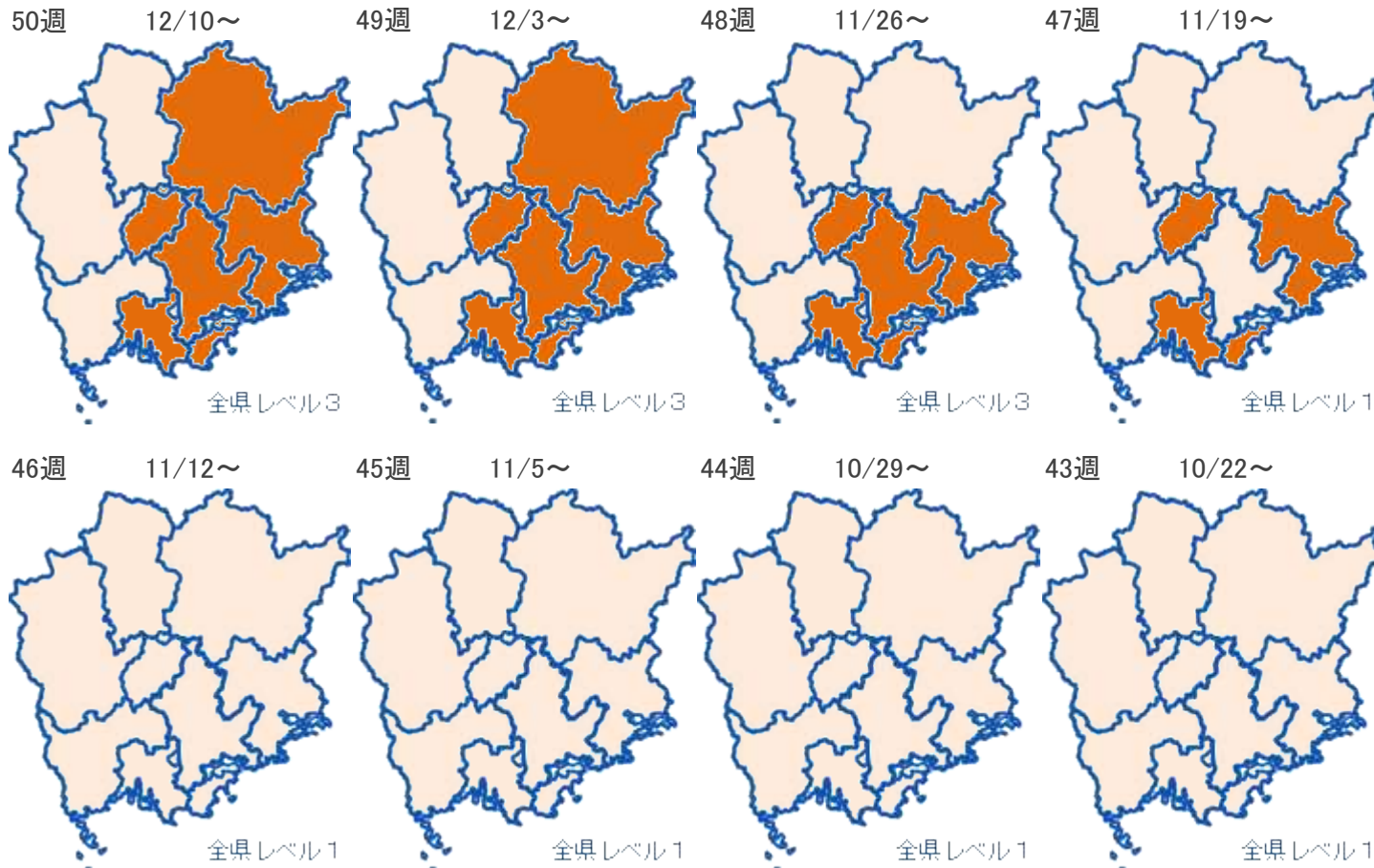




岡山県地区別 感染性胃腸炎感染症マップ 2012年 50週

2012年12月19日

11:26:00



感染性胃腸炎

レベル3		レベル2	レベル1	報告なし
開始基準値	終息基準値	基準値	基準値	基準値
20	12		0 < 20 未満	0

レベル3の開始基準値を一度超えると、終息基準値より下がらないとレベル3が継続されます。